

2012年
11月27日
火曜日

嚴 廷美 准教授 (社会言語学)

「韓国若者の就職事情」

今日は韓国の若者の就職事情について考えてみたいと思います。ここ数年ネット上で10代の青少年の相談をしてきているのですが、最近、珍しく20代のソウル在住の大学生からの手紙をもらいました。手紙の内容は以下のようなものです。

「10代の時は勉強を頑張っていたいい、塾などに通いながら一所懸命に勉強しました。そんなによくはなかったのですが、一所懸命に頑張った入ったソウルの**大学の経営学科。しかし、大学に入って周りの語学研修に行く波に流れ語学研修にも行ってきました。語学研修から帰ってきた後はすぐに軍隊に入隊しました。除隊してからは就職のためのTOEICの勉強に励みました。塾に通いながら頑張り、TOEICの点数は900点台。しかし、就職のためには資格にインターンシップもや

らないといけないというので、テレビ講義を受けながら塾にも通い資格も取りました。インターンシップも何とかやることができました。学校の勉強もいい成績を取めましたし、そして、いざ就職しようと就職活動をするときIMF時代より厳しい就職難が待ち受けていました。この前、毎経(韓国の経済新聞の一つである「毎日経済新聞」の略字)によると、SKY(韓国トップの3大学の英語のイニシャル。SはSeoul National University、KはKoryo University、YはYonsei University)も就職ができないそうです。あ、あ、では、面接の塾にも通わなければならぬのか、塾にお金を注ぎ込むために就職しようとするのか、本当に分からないこの世の中。ナニを、ドノヨウニ、もっと準備をすればいい就職先が見つかるのでしょうか。美容整形

もしなければならぬのかなあ……」
韓国政府統計庁の発表によると2012年度10月の20代の雇用率は43カ月ぶりの最低値である57%であるそうです。20代の半分くらいは仕事がないということです。韓国は周知の通り、教育熱も高く、高校生の大学進学率は世界トップの80%を上回っています。また、2011年度「OECD学業成就調査」から、2011年度青少年の学習時間は、韓国の青少年が最も長く、8時間55分に及んでいました。日本の場合は6時間22分で、韓国同様、学歴社会といわれている日本とも2時間半の差があるのです。また、統計庁の調査によると、青少年の悩みのトップは勉強や成績で、38.5%を占めています。韓国の青少年たちは長時間の学校や塾などで大学進学のために勉強し、大学進学後は就職のために膨大な量の資格や英語などの勉強を

強いられています。その代償として良い就職先が見つかるわけでもないのです。就職先が見つからないと恋愛も結婚も難しくなります。結婚したとしても出産をあきらめざるを得ないこともあるのです。このような現状に追いやられている若者を総称し「サムボセデ」といい、三つのことをあきらめた世代という意味です。三つとは恋愛、結婚、出産のこと、年代としては25歳から33歳くらいまでの世代を意味します。このような厳しい社会環境の中で、相談者の若者に対して、もっと「頑張ってくださいね」とか、「あなたは周りの流れに流されてやってきたのであって、本当に何がしたいのか真剣に考えて勉強をしたの？」と批判することは私にはできません。皆さんならこの相談者の手紙に何と答えるのでしょうか。答えをそれぞれ考えてみましょう。